

[004]鷹・鷹場・環境研究

<https://hdl.handle.net/2324/2560392>

出版情報：鷹・鷹場・環境研究. 4, 2020-03-20. Faculty of Art and Science, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

〔編集後記〕

『鷹・鷹場・環境研究』4号をお届けいたします。本号では、研究会メンバーから計7本の論文を掲載することができました。水野裕史さんにご尽力いただき、書式を整えてコンパクトにして経費節減につとめたため、冊子としては薄くなっていますが、内容は4年間の研鑽が結実した本格的な研究成果を提示できたと自負しております。とくに、ハイタカ・ハヤブサ・オオタカの差に着目しつつ、「御鷹」の献上儀礼、巢鷹捕獲、大名の猟の多面性や動物の生態、領民の生業と「御救」の関係、鷹場内の鳥猟の実態、鷹匠流派の検討など、多角的に分析を進めることができました。これほどの勢いで鷹・鷹場・環境研究が進展するとは、研究会の発足当初は想像もしていませんでした。力作を御寄せいただいたメンバーには、心よりお礼申し上げます。

さて、4月からは本科研は5年目の最終年度を迎えます。2020年度秋には新潟県長岡市での市民向けシンポジウム（10月31日土曜を予定）、一般市民に向けての『鷹狩の日本史（仮題）』の出版など、最終年度に向けて研究を集約していきたいと思えます。なお、本年度に計画していました第2次モンゴル調査隊は、現在、ハワイでサバティカル中の安田章人さんに冬場の狩猟に参加してもらう計画で、安田さんは日本にいったん帰国し、モンゴルに向かう予定でした。しかし、新型コロナウイルスの感染危険のため、モンゴル渡航後に米国に入国が難しくなる可能性が出たため、急遽、渡航中止の止む無きに至りました（相馬拓也さんは決行）。韓国調査の際もそうでしたが、外国調査の難しさを痛感するところです。とはいえ、国内・国外のフィールドワークの成果が確実に論文の内容に結びついていることは間違いありません。今後もフィールドワークを充実させ、机上の学問ではない鷹・鷹場・環境研究をめざしていきたいと考えています。ご意見・ご感想、また様々な情報など、ぜひともお寄せいただけますと幸いです（ち）。

鷹・鷹場・環境研究 Vol.4 2020年3月20日発行

編集 鷹・鷹場・環境研究会（代表：福田 千鶴）

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

九州大学基幹教育院福田研究室 Phone：(092) 802-6019

発行 九州大学基幹教育院

印刷 (株)ミドリ印刷

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南6-17-12 Phone: (092) 292-0300 (代表)

The Journal of Hawks, Hawking Grounds, and Environment Studies Vol.4

Published in March 20, 2020

Edited by the Society of Hawks, Hawking Grounds, and Environment Studies

Office:3404, Faculty of Arts and Science, Kyushu University

744, Motooka, Nishi-ku, Fukuoka, 819-0395, Japan

E-mail:fukuda.c@artsci.kyushu-u.ac.jp Phone:+81 92-802-6019